

町名考
南八木町

家並みに残る歴史景観

東西に走るＪＲ桜井線から南側の八木町を、昭和四五年に分離して「南八木町」が生まれました。

従いまして、北八木町から八木町を経て南へ通る中街道（下つ道）沿いの両側には、南八木町でも古い家並みが今も軒を並べ歴史的な景観を残しています。古くは、この家並みを眺めながら多くの旅人が吉野や紀州方面に向かったそうです（八木町・北八木町の項参照）。

第二次大戦が終わるまでの一時期には、皇族方をはじめ政治家・名人や各種団体などの檀原神宮参拝客はほとんど、八木町との境界にあるＪＲ桜井線・畝傍駅（所在は八木町）で下車して神宮に詣でたので、中街道などの沿道が連日、参拝者の行き来でにぎわったそうです。

かつての駅前には、神宮参拝客を当て込んだ商店や旅館・料理店などが立ち並び、駅前特有のにぎわいを見せていました。が今は、列車の運行激減の影響もあって昔日の面影が失われてしまいました。

それでも、駅前に立つ「檀原神宮」の大きな石碑や駅舎の一角に残る立派な「貴賓室」などが、過去となった畝傍駅界限のにぎわいをなつかしく思い出させてくれます。